

平成 24 年度事務事業評価調書

事業コード	02020105	区分	<input type="checkbox"/> 実行	<input checked="" type="checkbox"/> 経常
事務事業名	千早赤阪村国民健康保険診療所運営事業	担当部署名	健康福祉課健康グループ	
		作成責任者職氏名	課長 尾谷 義彦	内線 340
第4次総合計画体系	(基本柱)	(基本施策)	(細施策)	
	02健康・福祉	02地域医療体制の充実	01地域医療体制の充実	
実施期間	<input type="checkbox"/> 単年 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (昭和38年度 ~ 年度)		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助等
根拠法令等	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	法令等の名称	国民健康保険法、千早赤阪村国民健康保険診療所条例	義務付け <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

I 事務事業の概要<Plan>

<p>(1)事務事業の目的及び内容</p> <p>①目的 ・国民健康保険その他各種社会保険の主旨に基づき、模範的な診療を行うとともに無医地区解消対策に協力し、国民健康保険事業を円滑に実施すること。 ・本村における保健施設の中核として、公衆衛生の向上及び増進に寄与すること。 ・国民健康保険診療所及び保健施設に関する研究を行い、国民健康保険の健全な運営に貢献すること。</p> <p>②内容</p> <p style="text-align: center;">千早赤阪村国民健康保険診療所および千早赤阪村国民健康保険千早診療所施設の維持及び管理</p>	<p>(2)対象(誰を対象とするのか)</p> <p style="text-align: center;">村民等</p>
<p>(3)期待される効果(本事業によって対象者をどのような状態にしたいのか)</p> <p style="text-align: center;">住民の健康の保持増進を図ることができる。</p>	<p>(4)事務事業を進める上での課題や問題</p> <p style="text-align: center;">平成19年10月から指定管理者制度を導入し、診療所の健全な運営に努めているが、指定管理者においても黒字経営には至っていない。</p>

II 事務事業の実施<Do>

(1)事務事業の事業費及びコスト費								
		22 年度	23 年度		24 年度	25 年度		
		実績	事業費(予算)	実績(見込)	事業費(見込)	事業費(見込)		
事業費(見込含む)(千円)(A)		13,976	11,757	11,757	13,250	13,250		
財源内訳	国庫支出金							
	府支出金							
	分担金・負担金							
	使用料・手数料							
	起債							
	その他の特財	13,186	11,341	11,341	12,834	12,834		
	一般財源	790	416	416	416	416		
人件費	一般職員所要人員(人)(B)	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10		
	一般職員人件費(平均給与×(B))(千円)(C)	622	622	622	622	622		
総コスト費(千円)(A+C)		14,598	12,379	12,379	13,872	13,872		
人口あたりコスト(円)		2,369	2,009	2,009	2,251	2,251		
(2)成果指標等								
番号	指標区分	指標名称	単位	23 年度			24 年度	25 年度
				目標値	実績値	達成率(%)		
①	目標指標	利用者数(受診者数)	人	6,000	6,341	106%	6,000	6,000
②	目標指標							
③	目標指標							

○目標指標評價值(達成率平均值) 106% / 1 = **106%** (A)

(1/2)

III 事務事業の評価<Check>

(1)成果の自己検証		
評価項目	評価結果	評価の理由及びその考え方
①妥当性 ※施策の目的が村の政策体系に貢献しているか	4 4. 大いに貢献している 3. 概ね貢献している 2. あまり貢献していない 1. 貢献していない	目的達成のため妥当である。
②有効性 ※期待された効果が得られているか	4 4. 効果がある 3. 一応の効果がある 2. あまり効果がない 1. 効果がない	目的達成のため有効である。
③効率性 ※効率的に進められているか	3 4. 非常に効率は良い 3. 概ね効率は良い 2. あまり効率は良くない 1. 効率は良くない	千早診療所の受診者数は少ないが、独居や高齢化率も高く、交通のアクセスの問題もあり、継続が必要。
④公平性 ※受益や負担が公平になっているか	4 4. 公平である 3. 概ね公平である 2. 少し偏りがある 1. 公平ではない	全村民を対象としており公平性を保っている。

○事務事業評価値	15	／16	94%	(B)
(①～④の合計／16)				

(2)検証結果			
目標指標評価値 (A)	事務事業評価値 (B)	総合評価値 (A) + (B) / 2	評価ランク(改善の目安)
106%	94%	100%	a
a: 90%以上(現状維持又は拡充) d: 30~49%(休止・廃止又は縮小) b: 70~89%(見直し又は現状維持) e: 30%未満(休止・廃止) c: 50~69%(縮小又は見直し改善)			

IV 事務事業改善の方向性<Action>

(1)改善の方向性	
①改善の方向性(自己評価)	理由、改善する上での具体的な改善策や課題等
B	← A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
現在、指定管理者制度により診療を行っているが、今後は診療所の採算性や医師の確保を含め検討が必要である。 千早診療所は施設の老朽化が深刻であり、受診対象者(人口)の減少化もあり、地域医療体制を確保する観点からも今後のあり方が課題である。	

V 事務事業評価結果(担当者は記入しないでください。)

(1)政策担当結果	
本村においては、高齢化率が約31%(平成22年国調)となっており、超高齢社会を迎えている。特に高齢者の移動手段の確保など課題が山積している中、村民が地域で安心して生活するためには、地域医療の確保が必要であり、引き続き、民間活力を活かした指定管理による運営が妥当であると判断している。 ただし、千早診療所の運営については、老朽化が著しいなど課題があり、地域医療全体の中であり方を検討すべきと考える。	B

(2)第三者による有識者会議結果	
・今後10年を見据えた村の高齢者医療保健計画を策定し、政策目標を掲げることが必要である。例として一人当たりの高齢者医療費を府内で一番低くするなど。 ・千早診療所の老朽化に対応するため建替え基金を創設する。 ・千早診療所について、今後、建物の維持にこだわるのではなく、サービスの維持に努める方向で見直しを考えてはどうか。 ・コミュニティバスではなく、村営の福祉タクシーなど必要な時に必要なサービスを提供することができないか。 ・千早診療所のあり方について、そろそろ考える時期にきていると思われる。仮に廃止の方向となれば、高齢者の移動手段の確保が必要である。 ・人口動態を加味した村の将来構想と医療事業の現状の妥当性を打ち出すには、地域住民の本音を問うことと、結果として、千早診療所の必要性のもとに今後の改修、建替えなどを計画してほしい。広域にわたる村の中で村民の医療体制をどのようにするのか、村の将来像と合わせて検討すべきと思われる。 ・千早診療所の老朽化による建替えを考えると、当該事業だけで議論するのではなく、村の各種行政サービスの住民展開手法トータルの中で考えていくべきである。	B

(3)行政経営戦略会議結果	
本村においては、高齢化率が約31%(平成22年国調)となっており、超高齢社会を迎えている。特に高齢者の移動手段の確保など課題が山積している中、村民が地域で安心して生活するためには、地域医療の確保が必要であり、引き続き、民間活力を活かした指定管理による運営が妥当であると判断している。 ただし、千早診療所の運営については、老朽化が著しいなど課題があり、地域医療全体の中であり方を検討すべきと考える。また外部評価の意見を踏まえ、さらに充実を図る。	B

